

Be-News

別府大学のアツい想いをスクープ



別府大学
別府大学短期大学部

NO.109
2014 AUTUMN

Beppu University, Beppu University Junior College Magazine

Be-News

特集

食育



まちでウワサの

育ドル娘

歌って♪

踊って♪

食育活動♪



育ドル娘
IKU DORU MUSUME

短大食物栄養科の学生で編成する食育活動グループ。
主に、子どもたちに食育の大切さを伝えるため、保育園
や各種イベントなどで活動している。

研究室訪問
学びのトビラ
クローズアップ別大生
卒業生インタビュー
こんにちは先輩!!
平成25年度事業報告

編集／別府大学・別府大学短期大学部 広報室 発行日／平成26年9月20日 印刷／佐伯印刷株式会社
別府大学・別府大学短期大学部 〒874-8501 大分県別府市北石垣82 TEL.0977-67-0101



真理はわれらを自由にする

Be-Museum



「lefranc・pink」草場 菜穂子（文学部 国際言語・文化学科絵画コース研究生）

私の絵は、身近にあるどこにでもある風景です。まっしろな壁、地面の足跡、シミやひび割れ、タイルの床、窓の直線。そこにピンク色の絵の具を垂らした時、身近な風景は私だけの世界になるのです。

（130.3×194cm キャンバス・油彩）



食育♥まちでウワサの

育ドル娘

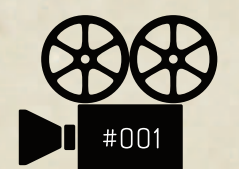
IKU DORU MUSUME



ある時は、アイドルのように
ステージで歌い踊り、ある時
は、料理を教える先生に。
レシピやカレンダー、紙芝居
を作り、企業とコラボして新
商品まで開発してしまう。
食育というミッションを胸
に、今や保育園などの施設や
イベントへの出演に大活躍の
『育ドル娘』に注目します！



別府大学アーカイブズ

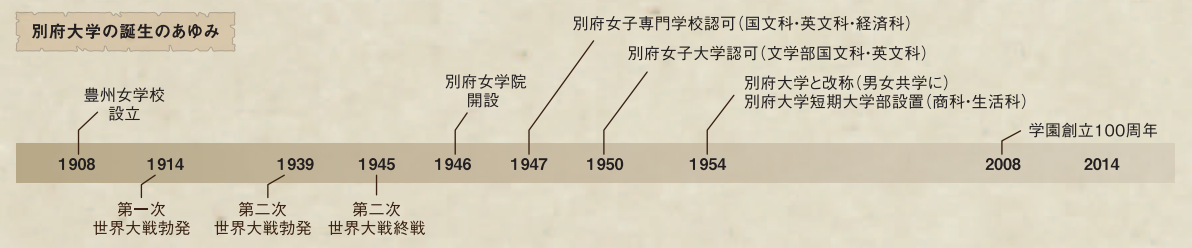


戦後の暗闇を抜け、
新しい時代の自由を求めよ



別府大学の建学の精神「真理はわれらを自由にする（Veritas Liberat）」は初代学長であった佐藤義詮（1906・1987）が定めたものである。
別府大学は1908年に大分市金池に創られた豊州女学校を母体とするが、佐藤は戦後別府に女性のための高等教育の学校である別府女子専門学校（創立

時の名称は別府女学院）を創立し、そしてこの新しい学校の教育の理想を「真理はわれらを自由にする」という言葉で表した。
佐藤は戦前・戦中の日本において真理と自由が弾圧されていたという認識に基づいて、戦後は真理と自由を愛する若者を育てていかねばならないと考え、別府女子専門学校をそのような若者の育成に貢献しうる学校として創つていこうとした。1946年5月15日に開学した別府女学院ではこの理想が教員や生徒たちにも共感を与えていたようである。
別府女学院、別府女子専門学校、別府女子大学、そして別府大学と別府大学短期大学部と名称は変わってきたが、「真理はわれらを自由にする」という建学の精神は本学の歴史を一貫する理想であり続けている。



Be-News NO.109 CONTENTS

- 03 特集
食育♥
まちでウワサの育ドル娘
- 07 学科からのトピックス
- 11 研究室訪問 学びのトビラ
国際経営学部国際経営学科 講師 森宗一
- 12 クローズアップ別大生
山田千陽
（文学部／国際言語・文化学科書道コース4年）
武本群、上野みさと
（短期大学部／保育科1年）
- 14 サークル紹介
スポーツ振興会・器楽部、F.R.C
- 15 国際交流
交換留学・ロシア人学生と竹田市の交流
- 16 Be-Recipe
中津減塩からあげ
別大生の御用達
サフラン
キャンパスボイス
テーマ／読書の秋におススメの冊
卒業生インタビュー こんにちは先輩!!
三谷紘平さん
（大学院文学研究科博士後期課程）
宿名久美子さん 志賀美佐江さん 後藤良子さん
（短期大学部生活科食物コース）
- 20 インフォメーション&イベント
学校法人別府大学 平成25年度事業報告



ロールケーキをテーマにしたカレンダー



地域素材のレシピ集を制作!!

ついに

九州進出! のり巻き発売中

食品製造の「めん食（熊本市）の依頼を受け、九州・沖縄各県の郷土料理やご当地グルメをヒントに育ドル娘が食材を考案した「九州一周のり巻き」が、6月から各県のスーパーなどで順次発売中です。これまで、宮崎県発祥のチキン南蛮や大分県臼杵市の郷土料理きんすましめしを使ったのり巻きが発売され、反応は上々。おいしさだけでなく、食品衛生上の問題や機械の生産ラインで製造するための制約など、多くの課題をクリアして誕生した渾身ののり巻き。ぜひ一度ご賞味あれ!



発売初日は店頭でPR

【九州一周のり巻き】



ただいま奮闘中

五代目 育ドル娘です!

育ドル娘の五代目となる1年生8人は、今は「育ドル娘エッグ」として修行の日々。いわば下部組織として、先輩である四代目のサポートしながら、ステージパフォーマンスやコミュニケーションの方法を学んでいます。人前で歌って踊ることにまだ恥ずかしさがあるというエッグたちですが、心に野望を秘めています。せっかくならばと夢はでかく世界進出で、「海外にも日本食の素晴らしさや食育という取り組みをアピールできれば」と奮闘中の毎日です。



初めての取材にドキドキ...

地域・企業とコラボ

オリジナル レシピを提案

これまでに育ドル娘が考案したレシピ集は5冊。豊後大野市特産のサトイモのほか、国東市産のジャムや味噌を使ったオリジナルメニューを考案し、カレンダーや本にまとめて紹介しています。里いものレシピ集では、和洋中と20種類を紹介するほか、効能や日本古来の伝統食の良さを掲載するなど、いずれも工夫を凝らした内容。未来の栄養士を目指す学生たちがじっくり取り組んだ集大成は、味の良さはもちろん見た目や作りやすさ、栄養面でも太鼓判!のレシピです。

輝きはアイドル級!? 研究室から誕生した食育の伝道師たち



【育ドル娘生みの親】
短期大学部 食物栄養科
教授 立松 洋子

2005年に現職に着任以来、社会のニーズに合った栄養・健康指導ができる栄養士や教員の育成に努める。テレビやステージの出演など、休日返上で育ドル娘とともに活動し食育の推進に尽力している。ミッキー・マウスヘアがトレードマーク。食物栄養科長。

地方発のアイドルグループが多く誕生するなか、大分からは大学発のアイドルがついに誕生?かと思えば、育ドル娘は単なるアイドルではない様子。何しろ、多くの人へ食育を広げたいという大切な使命を担っているのだから。食育の「育」とアイドルの「ドル」から名付けられた育ドル娘に所属するのは、栄養士のためごたち。食と命の大切さを多くの人に届けるため、立松洋子教授の「立松研究会」から2010年に誕生しました。食材や伝統料理、食生活など育ドル娘が伝える内容は様々。より分かりやすく、親しみやすくするために作った歌と



子どもたちへ手洗い講習



ゲームをしながら食育を伝えます



地域のイベントにも参加しています



食育教材として開発されたおむすび巻きずしセット

踊りなど、発想と活動のユニークさで人気は広がり、保育園などへの出張だけでなくイベントやテレビ出演にも大忙し。また、企業や自治体からのオファーで、レシピや商品開発にも挑戦し成果を上げています。現在メインで活動するのは四代目の2年生で、食品メーカーとのコラボなど、目覚ましい活躍ぶりを見せています。「栄養士になるための経験を積み、社会の中で身をもって学ぶことで成長していきます」と立松教授。県外での活動も増え、キラキラとまぶしい育ドル娘。今後の活躍がますます楽しみです。

育ドル娘と歌おう! 踊ろう!

育ドル娘がステージで披露する歌やダンスは、ほとんどがオリジナル作品。小さな子どもからお年寄りまで、楽しく歌って踊れる食育&健康ソングをご紹介します。



さあ、私たちとご一緒に!

一汁三菜

■作詞 作曲 振付 二代目育ドル娘

めざまし時計を止めたあと
一日バランス考えよう
主食に主菜に副菜に果物・牛乳
組み合わせ
主食はパン・ご飯に麺
主菜は肉・魚・豆腐(たまご!)
副菜は野菜をたくさん使った料理
果物と牛乳は一日一回とりましょう
おなかの大きなメタボ解消
こけても元気の骨作り
おはだピチピチつるつる
健康な体つくりましょう



たまごー

手洗いマンボ

■作詞 作曲 / 大分県東部保健所国東保健部
■振付 / 育ドル娘

手をー手をー
洗いましよ
手洗いマンボ ウーヤッ!
ゴシゴシ シャーカシャーカ
ゴシゴシ シャーカシャーカ
洗いましよ
手洗いマンボ ウーヤッ!
外から帰っておながが減ったよ
まずは おやっ
ちよと待つてその前に
ゴシゴシ シャーカシャーカ
ゴシゴシ シャーカシャーカ
洗いましよ
手洗いマンボ ウーヤッ!
帰ってきたら 手洗いマンボ!
ハイハイ!
おやつの前に 手洗いマンボ!
ウーヤッ!



ウーヤッ!



手洗いで食中毒を予防しよう!



観光振興の父、油屋熊八

別府駅を降りた観光客の多くが、思わず足を止めて見入ってしまうこの奇抜な銅像の主は油屋熊八（1863-1935）。別府の観光開発に尽力した人物です。86年前、地獄めぐりが別府観光の花形になると考え、大型乗り合いバスに女性ガイドを乗せて説明させ、これが日本初のバスガイドになったことはあまりに有名です。これをはじめ熊八は、並はずれたアイデアで別府観光の基礎を築きました。そんな「観光振興の父」の精神を継承し、別府の観光地としての価値を高めようと、このほど別府大学に「油屋熊八大

別府大学で学ぼう、油屋熊八の精神

「観光振興の父」の手腕を国際経営学部

両手を大きく広げたマント姿の男。マントの先には、なぜか子鬼がしがみついている――。別府駅を降りた観光客の多くが、思わず足を止めて見入ってしまうこの奇抜な銅像の主は油屋熊八（1863-1935）。別府の観光開発に尽力した人物です。86年前、地獄めぐりが別府観光の花形になると考え、大型乗り合いバスに女性ガイドを乗せて説明させ、これが日本初のバスガイドになったことはあまりに有名です。これをはじめ熊八は、並はずれたアイデアで別府観光の基礎を築きました。そんな「観光振興の父」の精神を継承し、別府の観光地としての価値を高めようと、このほど別府大学に「油屋熊八大



別府観光の未来像に熱弁を振るう国際経営学部の学生



シンポジウムを熱心に聴く学生ら



別府駅前にある油屋熊八の銅像

旅人をねんごろにせよ

熱弁を振りました。旅人をねんごろにせよ。別府駅前にある油屋熊八像の土台には、旅行者には心からもてなすようにとの熊八の精神が刻まれています。別府という一大観光地の真っ只中に身を置く別大生。このような熊八の前向きな精神こそ、身近で格好の教材となっているのです。

歴代育ドル娘の座談会



育ドル娘についてもっと知りたい！ということ、歴代の代表者が一堂に会し、活動中の思い出や苦労など、リアルな「育ドル娘バナシ」を語ってもらいました。

五代目 食物栄養科1年 石川 花奈

四代目 食物栄養科2年 安部 真悠子

三代目 食物栄養科学部3年（別府大学へ編入） 和田 悠里

二代目 保育園勤務 阿南 里佳

一代目 保育園勤務 藤原 沙也佳

先輩もビックリ！の大活躍

藤原▼まさかこんなに有名になるなんて！企業とコラボなんて自分たちの頃には考えもしなかったよー。

和田▼私たちの代でもけっこう忙しかったんだけど、今ほど多種多様な活動じゃなかった。元育ドルとして誇りに思います。

安部▼私たちは先輩たちの活躍ぶりにすごく影響されているんですよ。先輩がいなければ今は無いわけだし。休日ほとんど活動に費やしているので大変ですが、やりがいがあります。

阿南▼私たちの代が作った歌やダンスが代々引き継がれ、今も県内外の様々な場所披露されていてうれしいな。分かります、心に残るものを作るために大変だったから。

和田▼二代目の皆さんは本当にすごかったですよね。歌も踊りもキレがあつて笑顔が良くて。キラキラしてて本当にアイドルみたいだった！

藤原▼確かに私たちは始まったばかりで何が何やらってこともあったけど、二代目は人前ですごく弾けてたかも（笑）。

恥ずかしさと緊張を乗り越えて

石川▼育ドル娘エッグの私たちはまだ勉強中です。歴代の活躍をよく知っているだけに、自分たちにできるのか今不安だし、人前に立つのがまだ恥ずかしいです。

阿南▼最初はみんな恥ずかしいし緊張するよね。ステージで歌ったり踊ったりするなんて、慣れないと難しいもん。

和田▼私なんて最初にリーダーとして司会進行役を務めたステージの時、緊張し過ぎて何も食べられなかった！せっかく会場に楽しみにしてた「りゅうきゆう」があつたのに喉を通らなくて…。

安部▼慣れしないですよ。緊張も恥ずかしさも回数をこなせば慣れる！

藤原▼やっぱりステージに立つ人が堂々としている方が観客も気持ちいいはず。こっちがモジモジしてたら見ている方も恥ずかしくなるから。とにかく笑顔で動作を大きくハキハキすることかな。

感動？冷や汗？思い出の晴れ舞台

安部▼子どもたちが一緒に歌って踊ってくれたりするとうれしいですね。逆に、シーンとした会場はつらい…。

阿南▼私たちの時も、大人ばかりで全く反応が無い時があつたなあ。やるしかない！と割り切り、笑顔と大きな声で乗り切ったけど、NHKの生放送は、ステージとはまた違う緊張でドキドキ！

和田▼私も出演しましたが、なぜか三代目の時は途中から私だけ先生やキャスターの方と並んで座ることに。

阿南▼そうそう、何かコメントターみたいだったよね（笑）

安部▼ステージやテレビ出演ももちろんですが、私はやっぱりのり巻きの開発が一番印象深いですね。

藤原▼実際にお店に並ぶ商品開発をするなんて、本当にすごいと思う。

阿南▼自分たちの頃より活動の幅がすごく広がって、うらやましいぐらい。

育ドル娘で得たもの、学んだこと

和田▼人前に立つ度胸がついたし、栄養士として働くために必要なことを、身をもって学べました。

藤原▼やっぱり人に何かを伝えることがって難しい。でも育ドル娘の活動で、分かりやすい表現や言葉を考え、たくさんの人に伝える練習ができたことが、今の仕事にすごく役立っています。

阿南▼私の場合、理想の職場に出会うきっかけを作ってくれました。育ドル娘として訪問した時いただいた園児用の手作りおやつに感動してここで働きたいなって。いろいろな現場を見ることができたのも素晴らしい点だと思います。

安部▼栄養士として社会へ出て行くための経験がたくさん積めるし、活動そのものが卒業後の進路を開くことになってます。のり巻きでコラボした「めん食」さんをはじめ、育ドル娘の就職に興味を持ってくれている企業がけっこうあるんですよ。

阿南▼五代目のみんなも今しかできないことを大事に、いろんなことにチャレンジしていくてください。

藤原▼これからの活躍に期待しています！



02

史学・文化財学科

より正確な文化財調査を目指して 新規設備2機器導入

文化財科学部門では、文化財の保存修復（壊れてしまった文化財をもとの形に戻すこと）と自然科学的手法を用いて、より永く後世に伝えるための方法を学ぶことができます。

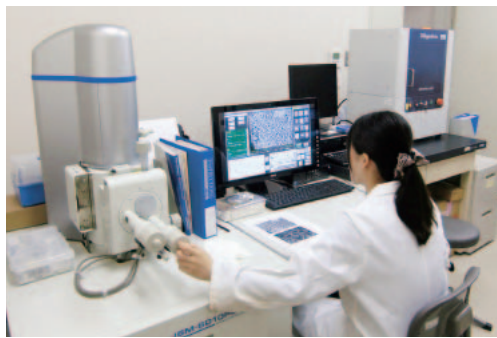
とくに自然科学的な調査は、黙して語らない文化財の「内なる声（情報）」を聞き出し、文化財の材質調査や材料の産地推定、製作技法などを明らかにすることが可能です。既存の設備としてエックス線透過試験装置、蛍光エックス線分析装置、質量分析計などが設置されていましたが、今回、新たに走査型電子顕微鏡（元素分布の検出機能搭載）とエックス線回折装置を導入し、さらに微視的な見地からのアプローチや材質の結晶状態（元素が同じでも結晶状態が違くと別の物質になる）なども調べることができ、より深い文化財の調査・研究ができるようになりました。

大学院や学部の授業では、これらの分析装置を実際に利用して、自らの目と手で経験し、文化財に対する理解を深めています。このように保存修復と自然科学的な調査法が総合的に学べる大学は、九州では別府大学のみです。

また、本学は、自治体や博物館などの



エックス線回折装置を使った鉄サビの調査



走査型電子顕微鏡を使った、象嵌技法の調査

公共機関に多くの考古学専門員や学芸員を輩出していますが、大分県下はもとより卒業生たちの所属機関では行えない自然科学的な調査を地域連携の一環として受け入れています。

03

食物栄養学科

学生考案の『中津減塩からあげ』が受賞！

「ご当地かるしおレシピプロジェクト2013 S-Ig(エス・ワン・グランプリ)大会」惣菜部門「だし・うま味賞」

食物栄養学科では、今後さらに減塩と美味しさを追求し、県民の皆様の健康増進のために邁進していきたいと考えています。

今回受賞した「中津減塩からあげ」は中津市耶馬溪の「おおい冠地どり」に、しいたけのうま味、かぼすの酸味と香り、かくし味の日田梨やはちみつのかき混ぜ、薄味でもうま味の効いたまろやかな味の「減塩からあげ」に仕上がっています。レシピは本誌16ページに掲載しています。是非作ってみてください！

地元の特産品を生かした減塩レシピを競う「ご当地かるしおレシピプロジェクト2013 S-Igグランプリ大会」(国立循環器病研究センター主催)最終選考が平成26年1月大阪市で行われ、食物栄養学科4年の辻夏姫さん(東九州龍谷高校出身)と宮原由美さん(杵築高校出身)が応募した「中津減塩からあげ」が「だし・うま味賞」を見事受賞しました。応募総数355作品中、一次選考を通過した24チームが最終選考会にて調理し、3分間のプレゼンテーションを行いました。プレゼンテーションでは、レシピの説明とともに本学科が10年間取り組んでいる「湯けむり健康教室」(地域の循環器病予防に対する取り組み)についても説明しました。



コンテストでの調理の様子



辻さんと宮原さんのプレゼンテーション



特別審査員には女優の壇ふみさんも参加されました

04

国際言語・文化学科

大分から明るいユーモア発信しようええ！ 「第5回ユーモアまんが大賞」

平成22年度に別府大学創立60周年事業として始められた「大分ユーモアまんが大賞」も、今年で節目の第5回を迎えます。毎年、県内はもとより全国各地の幅広い層から多くの楽しい作品をお寄せいただき、良質なユーモアを発信するコンテンツとして定着してきました。昨年は、シヨートストーリー・四コマまんが部門126作品、一コマまんが部門135作品。特に四コマまんがが大充実でした。過去の入賞作品は大学ホームページをご覧ください。



応募の詳細は本学HPをご覧ください
<http://www.bepu-u.ac.jp/>

11月2日には初心者の方にアイデアの出し方、原稿の描き方を指導する『特講マンガ塾』もキャンパス内で開かれます。作品の締切は、12月1日。たくさんのご応募をお待ちしております。

05

発酵食品学科

発酵食品を自分の手で作ってみる 発酵食品製造実習

新1年生から、発酵食品製造実習という新しい科目が始まりました。発酵食品学科では、4年間で発酵食品について化学的に詳しく学んでいきますが、1年生のうちから実際に製造体験をすること、発酵食品に触れ、知識を深めてもらうことが目的です。作った食品は、味噌、塩こうじ、パン、甘酒、チーズ、ヨーグルト、アンチビなど。1年生からは、「実習楽しい、大学楽しい」という声が多数聞かれました。逆に上級生からは、「私たちもやってみたいかった」という恨み節も…。後期の発酵



話題の塩こうじ作りに挑戦

食品加工実習では、前期に自分たちで製造した発酵食品を使って調理加工を行います。どんなものが出来上がるか、みんな今から楽しみにしています。

06

人間関係学科

福祉や心理に関するテーマがずらり 卒業論文中間報告会を開催

6月25日、メディア教育・研究センターにて人間関係学科卒業論文中間報告会を開催しました。

今回は、各ゼミから選ばれた11名の4年生が現在取り組んでいる卒業論文の構想や進捗状況について発表しました。「罪を犯した知的障がい者の社会復帰について」「心理劇の観客におけるカタルシス効果」など、福祉や心理に関する専門的なテーマはもちろん、「夕食を抜くこととダイエットに関する一考察」「婚活の現状」など幅広いテーマが取りあげられ、参加者



卒論の中間報告をする学生

も非常に興味をもつて聞いていました。また、質疑応答の時間では、たくさん質問が出され、発表者にとっても参加者にとっても充実した時間となりました。

07

短期大学部
食物栄養科

家庭で作るプロの味、今年は鯛づくし 日本料理講習会開催

毎年開催される短期大学部食物栄養科主催の日本料理講習会を、今年も6月29日に開催しました。食物栄養科設立以来、著名な料理の専門家を講師としてお招きし、卒業生や県民の調理技術の向上を図る目的で料理講習会を開催しています。

本年度は、『日本料理創作懐石 食楽よしたけ』の吉武健次郎氏を講師としてお招きしました。テーマは「プロの技を使って作る家庭料理」。メニューは、鯛をメインに、「鯛飯・鯛の潮汁・鯛のサラダ・鯛の蓮蒸し・豆腐の土佐揚げ・焼きなすのにこり・ゴ



プロの技を間近に体験

マアイス」でした。受講生の方々には、レシピがとても使いやすいと喜ばれ、また、流の技を伝授して頂いたとの感想をお寄せ頂きました。

わんぱく子ども夏まつり 実行委員長・副実行委員長で活躍！

毎年、植田公民館（大分市）と連携して開催している「わんぱく子ども夏まつり」。今年は7月12日（土）に行われ、プログラムやコーナーの企画から遊具の制作まで、保育科1年生が5月から準備に取り組みました。

短期大学部 保育科1年

武本 群

（大分県 大分東明高校出身）

実行委員には立候補したのですか？

武本 ▶先輩たちがやってきたまつりの様子をビデオなどで見て、自分たちでもっと面白いまつりにしたい！と、実行委員に立候補しました。6人の実行委員の中から、みんなの推薦で実行委員長に選ばれました。

上野 ▶人前に出たり、リーダーになるのが苦手だったので、その苦手を克服するチャンスだと思って今回副実行委員長にチャレンジしました。

実行委員長、副実行委員長として大変だったところは？

上野 ▶入学してすぐ準備が始まったので、先生やクラスの仲間とコミュニケーションがうまくとれず、意見をまとめるのが大変でした。でも、一緒に準備をしていくうちに仲が深まってきましたね。いろんな意見も言い合えるようになり、すごく視野が広がりました。

子ども夏まつりの感想や印象に残っていることを教えてください。

武本 ▶たくさんの親子連れの方が参加してくれ大成功でした！今回は子どもから大人まで一緒に楽しめるよう、AKB48の「恋するフォーチュンクッキー」のダンスを取り入れました。幼児向けじゃないと反対意見もありましたが、結果的には会場が一体となり盛り上がったのでうれしかったです。

上野 ▶子どもだけでなく、保護者の方にも楽しんでもらえてうれしかったです。片づけをしていたら、会場に残っていた3歳ぐらいの女の子が、一緒にごみを拾ってくれました。その姿に感動しました。

保育科に入学した理由は？

武本 ▶両親が保育士をしているので、小さい頃から保育士になるのが夢でした。保育科の1年生は65人と人数が少なく、先生たちの距離も近くてアットホームな雰囲気です。大分キャンパスは緑が多くて環境もいいですね。

上野 ▶子どもの頃から続けているピアノを生かせる仕事がしたいと保育科を志望しました。今回の子ども夏まつりで、子どもたちのたくさんの笑顔に出会い、保育士への夢が広がりました。

将来どんな保育士になりたいですか？

武本 ▶ピアノや手遊び歌など室内での遊びと、体をいっぱい動かす外遊びと両方が得意な、世界最強の保育士になりたいです（笑）

上野 ▶子どもたちにも好かれるのはもちろんなのですが、保護者の方にも信頼してもらえる保育士になりたいです。

後輩に向けてひとことお願いします

武本 ▶僕と一緒に世界最強の保育士を目指しましょう！

上野 ▶学生時代はぜひ、苦手なことにチャレンジしてみてください。たくさんの発見がありますよ。

短期大学部 保育科1年

上野 みさと

（大分県立大分鶴崎高校出身）



まつりを盛り上げた6名の実行委員



段ボール製の手作り遊具は大好評！

平成26年度毎日書道展で 「U-23毎日賞」を受賞！

国内で最大規模を誇る「毎日書道展」。

山田さんは今年度のU-23（18～23歳）部門で、一番入賞が難しいとされる「漢字I類」において、最高賞である「毎日賞」を受賞しました。

山田さんが書道を始めたきっかけは？

4歳年上の姉が近所の書道教室に通っていて楽しそうだったので5歳から通い始めました。本格的に書道にのめり込んだのは高校時代。書道部顧問の山室有紀（旧姓河野）先生は、生徒をぐいぐい引っ張ってくれる先生で、その指導のおかげで書道がどんどん面白くなりました。毎日部活を楽しみに学校へ行っていましたね。

別府大学へ進学した理由は？

山室先生は別府大学の卒業生で、荒金信治教授の教え子です。そのつながりで、高校1年生の時から別府大学のオープンキャンパスに参加していました。他大学への進学を勧められたりもしましたが、自分の目でいろんなものを見て、知らないことも知った上で、やはり書道をやりたいと思い、別府大学への進学を決めました。

書道はどんなところが面白いのですか？

書道には終わりがありません。私は隷書の古典が好きで隷書にこだわってきました。隷書の中にもいろんな字体があり、一つずつ学んでいくのが面白いです。また、書道を通じて文字の歴史を紐解くことができ、古代から続く悠久ロマンを感じます。

大学時代で変わったことはありますか？

私は高校時代から、ささいなことですぐに泣いていました（笑）。書道コースに入学して、荒金教授や先輩・後輩との出会い、またはじめての一人暮らしの経験などで、自分がしっかりしなくてはならないという自覚ができた頃から泣かなくなりました。

今回、「U-23毎日賞」を受賞した時はどんな気持ちでしたか？

荒金教授から受賞を教えてもらったのですが、まさか自分が受賞したとは信じられませんでした。今回は大学4年間の集大成として一番気合を入れて書いたので、受賞してすごくうれいです。両親も大変喜んでくれました。

将来の夢は？

先生方のおかげで書道の面白さを知り、書道で世界が広がりました。私もその面白さを伝えられる書道教員になりたいです。これからは隷書だけでなく様々な字体を含めもっと勉強する必要があります。大きな文字の大胆な作品にも取り組んでいこうと思っています。

後輩に向けてひとことお願いします

進路を決めるときには、自分の好きなことや得意なことを見つけることが大事です。いろんな方向を模索する中で、きっと自分のやりたいことが見つかるはずです。

クローズアップ

Closeup!

別大生

キラリと輝く別大生を紹介します。

文学部 国際言語・文化学科
書道コース4年

山田 千陽

（大分県立佐伯鶴城高校出身）



愛用の筆巻きは、お母さんの手作り



「題額についての考察」の題目で卒論にも取り組んでいます

国際交流



日本の原発事故をきっかけに環境を専攻

交換留学生 趙信英さん（韓国／龍仁大学校）



「韓国で高校3年生だった時、日本で悲惨な原発事故が起きました。それでも韓国は原発を増やそうとしています。ちょっとおかしくないですか…」。

別府大学に交換留学生としてやってきた趙信英（チョウシンヨン）さん。韓国の龍仁大学校の環境学部環境学科で学んでいます。環境を学びたいと思ったのは2011年3月に福島県で起きた原子力発電所事故がきっかけだったとのこと。

趙さんは、2014年4月からの2年次を別府大学文学部に留学して単位を取得し、2015年2月に帰国する予定。受講しているのは「日本語プレゼンテーション」、「日本語ライティング」のほか、「国際関係論」、「西洋史」、「環境歴史学概論」など計8科目です。

「日本人といっしょに日本語で授業を受けることが楽しい」。ギター愛好会や国際交流会にも所属し、大学生活をエンジョイしています。

最近、トキハ別府店の「無印良品」でアルバイトを始めました。「日本の接客方法、敬語などをしっかり勉強できるところでアルバイトしたかった。将来も日本と関係した仕事をしたい」と趙さん。

温泉大好き。鉄輪温泉、明礬温泉にも行ったそうで「足湯に入っていたらみんなが声をかけてくれた。別府はやさしい街です」と笑顔でこたえてくれました。

ロシア人学生と竹田市の交流

別府大学国際セミナー

別府大学国際セミナーでは毎年、ロシア、韓国、台湾などから日本語・日本文化を学ぶために多くの学生が来日しています。その1つに、ロシア人学生と竹田市の交流があり、日露戦争で戦死した竹田市出身の海軍中佐廣瀬武夫とロシアとの交流を縁とし、毎年竹田市での機会を得ています。

今回、ロシア国立研究大学高等経済学院10名（内1名引率）は、1泊2日の日程で、藍染め体験、広瀬神社への参拝、岡城趾散策など、竹田市で様々な活動をし、宿泊では、ホームステイをするなど、都市部では体験できない日本文化を満喫しました。

特に竹田高校生との交流会では、日本文化である弓道や茶道を一生懸命に伝えようとする高校生、理解しようと熱心に質問するロシア学生の間に、何も壁はなく、瞬間に打ち解け、交流を深めていました。



ロシア学生と竹田高校生



撮影／写真部

スポーツ振興会

サークル



下期総会での幹部交代式

学生からのひびこり

以前と違い、今はスポーツ振興会の全サークルのことを考えるようになりました。地味な世代とされていますが、頼りがいのあるメンバーと共に、良い意味で目立てるよう頑張りたいです。



文学部 人間関係学科3年
町田 健太
（大分県立大分南高校出身）
サッカー部所属
第37代スポーツ振興会会長

大学生活の大きな魅力の1つといえば、「サークル」。このサークルに対するイメージはチャラいだとか、遊んでいるだとか少々残念な印象を持っている方もいるでしょうが、別府大学ではそんな印象を覆すスポーツ振興会こと、スポーツ振が存在します。

スポーツ系サークル（21サークル370余名）はこのスポーツ振興会（学生による自治集団）に所属しており、その中でも各サークルから選ばれし8名はスポーツ振の幹部として、主に諸行事の企画

伝統を引き継ぐ、硬派集団！8

エイト

立案・運営や大学側と各サークルとの調整役等、より良いサークル活動が出来るように日々奮闘しています。

6月新たに会長に就任した町田くんは、「いちサッカー部員から今回会長になったことで、考え方や物の見方が一気に変わり、歴代幹部の方々の苦勞に気付きました」と、会長の自覚が芽生えてきています。

代々受け継がれてきた真つ赤なジャージに身を包み、伝統の継承と改革に挑む、スポ振幹部に期待です。

サークル紹介

学部、学科を超えた絆は、人生の宝物

学生からのひびこり

あの部屋は僕にとって心の拠り所です。先輩、同級生、後輩たちのことは大袈裟かもしれませんが、本当の家族のように思っています。そんな関係が築けたのもあの部屋があったからだと思っています。部屋ありがとう。



文学部 史学・文化財学科3年
田上 悟大
（福岡県 九州国際大学付属高校出身）
器楽部部長（ドラム担当）



OB・OGが書き残したメッセージ

ありがとうと思い出、さよなら部屋

「もうこんな時間か。」一日の終わりを知らせてくれるのは、夕方になると聞こえてくるロックバンドの演奏です。

音の発信源は、1号館事務局真下にある器楽部、F.R.Cの部屋からです。

場所の通りアングラでライブハウスのような空間も来年度着工予定の新1号館建設に伴い、12月には取り壊しとなります。

この地下部屋はかなり古く、1969（昭和44）年に3号館が完成するまで学食として利用し、学食が3号館に移って

からの約45年間、指先を絶えず見ながらコードを覚える学生、ドラムスティックを初めて握る学生たちが、学園祭でのステージを目指して練習を重ねてきた場所です。

時を重ねなければ醸し出せない独特な雰囲気があり、器楽部やF.R.Cの部員・卒業生にとって、思い出がたくさんつまった場所がなくなるのはさみしいですが、再来年完成予定の校舎で、新たな時間が動き始めます。

器楽部、F.R.C





同級生3人組でオープン! 優しい味のパン屋さん

昭和61年短期大学部生活科食物コース卒業

🎓 宿名 久美子さん(左)

🎓 志賀 美佐江さん(中)

🎓 後藤 良子さん(右)

(手作りパン香房てまり 経営)

大分キャンパスから車で3分、住宅地の一角にある「パン香房てまり」。いい匂いに誘われ店内に入ると、焼きたてのパンがたくさん並んでおり、どれを買おうか迷ってしまいます。

昨年の9月にオープンしたこのお店は、短期大学部生活科食物コース(現食物栄養科)の卒業生、宿名久美子さん、志賀美佐江さん、後藤良子さんが営んでいます。3人は同じクラスの同級生で仲が良く、卒業後も交流が続いていたそうです。それぞれの道を進む中、宿名さんは得意としていたパンのお店を始めたとい、志賀さ

んと後藤さんを誘い3人でスタート。『安全安心』をモットーに、具材やソース、クリームも手作りにこだわった優しい味わいのパンは、近所でも評判です。朝7時から開いているので、高校生が通学途中に立ち寄ったり、小学生がおやつに買いに来るそうです。大分キャンパスでも販売しており、学生にも人気。「お客さんにおいしいと喜ばれるのが一番の励みですね」と宿名さんは笑顔で話してくれました。

短大時代の思い出を尋ねると「個性的な先生方が多かった。どの先生ともよく話をしたので、それぞれの先生に思い

出がありますね」と後藤さん。下宿生だった志賀さんは「調理実習で作った料理をみんなが持たせてくれたので助かりました(笑)」と、当時は振り返ります。「実習はきつかったけど、あの時のがんばりが今に続いていると思います。今がきつくて、日々がんばって」と、3人の先輩が後輩にエールを送ってくれました。

「これから地域で長く愛されるお店にしたいですね」と、夢を語ってくれた宿名さん。おいしいパンと笑顔に出会える「てまり」に、ぜひ立ち寄ってみてください。



カントリー調のぬくもりあふれる店内



新メニューも続々登場

手作りパン香房 てまり

由布市挾間町東院1633 ゆふコーポ1階(大分大学医学部裏)
TEL.097-576-8166
■営業時間／7:00～17:30
■定休日／日、月曜日(不定休あり)

正しい歴史を 明らかにしていきたい

平成17年文学部文化財科卒業

平成22年大学院文学研究科

博士後期課程単位取得、満期退学

🎓 三谷 紘平さん

(中津市教育委員会文化財課文化財係 勤務)

高校生の頃から興味があった歴史の市民講座で、賀川先生(故人)の話聞き、関東や関西に行かなくても歴史が学べる、と本学文化財学科へ進学。大分県各地の史跡へ足を運び、フィールドワークや実習に励む4年間を過ごし、その後さらに研究を深めるため大学院へ。25歳の時、大学院に籍を置く傍ら、中津市本耶馬溪にある羅漢寺の調査に参加したことがきっかけとなり、現在は中津市教育委員会の文化財課で学芸員として勤務しています。

「将来を見据えて勉強してきたので

はなく、目の前にあることを調査・研究していたら、今に至っています。後輩の見本にならないですね(笑)」。三谷さんは、最初から学芸員になることを目標にしていたのではなかったそうですが、当時から文化財関連以外の職に就く気にはなれず、とにかく研究をしていたかったそうです。

「歴史に携わる人間として、従来の説が覆ることもしばしば。その時々で、柔軟にいろいろな情報を取り入れたい」。日々の仕事では、固定観念に捕らわれず、人の話をきちんと聞くことを心掛

けているそうです。時に、自らが出した結論と異なる意見は、その結論を出すことに一所懸命であればあるほど、真正面から向き合うことは難しい。「それはとても難しいですが、それでもきちんとその意見に耳を傾けるようにしています」と、三谷さんは語ってくれました。

その謙虚さは、インタビュー中に語ってくれた「正しい歴史を明らかにしていきたい」という歴史に対する誠実さの表れでした。



三谷さんが調査に携わった五百羅漢(中津市)今年8月に国の重要文化財に指定された



今年5月に出版となった三谷さんの著書『中津藩』(現代書館)

荒金正憲短期大学部 名誉教授に感謝状を贈呈

荒金正憲短期大学部名誉教授が、約40年にわたって撮影した植物のスライドフィルム約11万枚を、本学附属図書館に寄贈されました。県内外の野生栽培植物3,230種類が、「APG分類体系」で分類され、全186巻にまとめられています。このご厚意を受け、4月30日に荒金名誉教授

に感謝状の贈呈式を行いました。本学では、この貴重な資料を末永く保管活用していきます。



さつき祭実行委員会、 銀色有功賞受賞！

今年5月さつき祭実行委員会が、日本赤十字社より銀色有功賞を授与されました。約10年前よりさつき祭（春に行われる文化系サークル主体の学園祭）にて、実行委員会が参加した学生や一般の方から募った募金を日本赤十字社に寄付していました。この度、その功績が認められ、今回の受賞となりました。今後も良き伝統として引き継いでいきます。



ASEAN ユースキャンプに参加

4月23日～30日、タイのラチャモンコン・ラタナコシン工科大学が企画する「ASEANユースキャンプ」に、本学より後藤舜果さん（史学・文化財学科2年・左）と中村舞さん（国際言語文化学科2年・右）の2名が参加しました。このキャンプは、韓国や中国、ベトナムなどASEAN圏の学生が集まる国際セミナーで、後藤さん、中村さんはタイの文化を学んだり参加学生と交流し、国際理解を深めました。



別府大学名誉博士称号記 授与式を挙行了しました

4月17日、韓国・慶雲大学の金香子（キム・ヒャンジャ）総長（兼大邱科学大学理事長に名誉博士（国際経営）の称号を授与しました。慶雲大学学校とは、2005年9月に国際交流・学術研究の協定を結び、教職員の相互訪問をはじめ、国際遠隔画像会議や短期留学など、金総長のご尽力のおかげで活発な交流が続いています。今後も、両大学間の交流を深めて行きたいと思います。



別府警察署から 感謝状をいただきました

JR別府大学駅では自転車の盗難が相次いでいたことから、今年5月に防犯カメラを設置しました。設置後は盗難がなくなっており、犯罪抑止に対する環境整備の功勞が認められ、別府署から感謝状をいただきました。6月23日の贈呈式では坂井英明署長から日高紘一郎理事長（代理 渡辺政美事務局長）に感謝状をいただきました。本学では今後も、地域の安全に努めていきます。



多くの卒業生の学び舎 1号館改築工事に着手

東日本大震災もあり、校舎の耐震化が急務となっております。今回1号館を解体し、新1号館を建設することになりました。1号館の歴史は古く、50年以上前に建てられ、小規模な増改築を繰り返しながら、現在に至っています。1Fに事務局、2～4Fには講義室があり、各教室で受けた講義や共に学んだ友人、教鞭を執っていた先生が思い出されます。新1号館完成は2016年春頃を予定しています。



編集後記

まちでウワサの広報室

4月に始動した広報室。目指したのは「別府大学は楽しいところ」を学生に実感してもらうだけでなく、これから別府大学への進学を考える高校生など学外にもしっかり認識してもらうことでした。K広報室員が徹夜で考案したこのイラスト表紙。学生たちの「顔」をできるだけ掲載した方がよいとの趣旨からボツになりましたが、このような情熱が重なって完成したのが今回の新生BeNewsです。特集記事の見出しのような「まちでウワサの広報室」を目指します。（あ）



幻の表紙イラスト

学校法人別府大学 平成25年度事業報告

1.中長期的な経営戦略への取組

私学を取り巻く環境が厳しさを増す中、本校校法人が重視している教育研究活動や社会貢献活動を持続的に発展・強化させるために、「学校法人別府大学中期計画」（平成24年度～平成28年度、5ヶ年）を策定し、中期計画の最終年度には帰属収支差額比率を一定水準以上確保することを目標に経営の基盤固めを進めました。

2.教育研究施設設備の充実

①本校校法人が保有する建物面積のうち、昭和56年以前に建設され、耐震補強等を必要とする旧耐震基準の建物が全保有面積の41％ありましたが、平成22年度より順次、耐震補強等に取り組み、今年度末の未整備面積は全保有面積の28％まで改善しました。また、施設・設備マスタープラン検討委員会において、教育研究設備の更新について基本的な考え方を整理しました。

②平成25年度の主な施設・設備整備事業

①施設の整備

別府大学4号館耐震補強工事、桜ヶ丘住宅建設工事
明豊高校の家庭科教室改修工事

附属幼稚園ホール棟の耐震補強及び屋根葺替工事

②設備の整備

学内LAN及び学習情報支援無線LANの整備
教育用コンテンツ利用推進事業用コンピュータの整備
文化財の材質・劣化診断システムの導入

短大の教育研究活性化設備整備

33号館及び明星幼稚園の空調設備工事など

I 事業の概要

1.大学・短期大学部

別府大学、別府大学大学院及び別府大学短期大学部（以下、「本学」という）は、高等教育の質の保証を図るため、教育課程、カリキュラムの再編・管理運営体制の見直し等について、これまでの改革を引き続き推し進め、特色ある魅力的な大学づくりに取り組んでいます。平成24年度から始動した5ヶ年計画「教育研究発展計画2012～2016」（別府大学未来へのアプローチ）においては、大学のミッションを教育、研究及び地域貢献の3つにまとめ、更にそれらを実現するため5つのビジョンと10の重点目標を掲げています。本学では、この5ヶ年計画を着実に実施するため、担当組織を定め、年度計画を策定するとともに活動実績報告を取りまとめ、年度ごとの自主的・組織的な教育研究活動の改善に努めています。

①教育目標の明確化とカリキュラムの最適化

①大学においては、既に策定しているカリキュラムポリシー、ディプロマポリシーに基づいてカリキュラムを見直し、科目の体系的や順次性を高めました。

②短大においては、カリキュラムツリーの書式を統一し、ディプロマポリシーとの関連を明確にしました。

③大学では学生のマナー教育についてワークショップ型の研修会を開催しました。短大では、成績分布・覧を半期ごとに配布し、単位修得率の低い授業科目の改善方策について検討しました。

②授業の改善と教育システムについて検討しました

①大学ではFDワークシヨプ「学生のマナーアップを考える」を開催しま

した。また、外部講師を招聘して「教育改善FD研修会を通したカリキュラム改善の試み」「大学生の心の問題への対応」などを開催しました。

②短大では、大分短期大学との相互評価に取り組み、その評価結果を短期大学基準協会に報告しました。

③ミッツバーについては、昨年度に引き続きその普及・活用に努めました。短大では、学生による授業改善アンケートの結果において授業評価の高かった教員の実践報告をFD研修会において実施しました。

④大学と短大が協力して学生の学習実態調査を実施し、優れた学習成果を上げた学生を表彰しました。

⑤大学・短大とも大学生生活の不安解消、人間関係づくりを促すための初年次オリエンテーションを実施しました。また、学習を円滑にサポートさせるため入学前教育に取り組みとともに、全学科で基礎演習（導入演習）を実施しました。

③学生支援の充実

①学生相談については、全教員がオフィスアワーを設け、また、問題のある学生の情報を教員間で共有しました。

②心の問題を抱える学生への理解を深めるFD研修会を実施しました。短大では相談データの作成に取り組み、学生カルテを共有しました。

③保護者懇談会、就職懇談会を本学会場だけでなく地方会場でも実施し、その際に個別面談や二者面談を行い、修学指導、就職指導の面で保護者との連携を図りました。

④キャリア支援の充実

①大学では、キャリアセンターと連携し、各学科で専門に応じたキャリア教育を行っています。短大では、平成26年度よりキャリア科目「進路指導Ⅰ・Ⅱ」を全学科に開設するため、FD研修会でキャリア教育について討議しました。

②キャリアセンターでは、キャリアカウンセラー有資格者及び民間企業幹部出身者を配置し、就職相談や面接指導等の対応を強化しました。

③卒業生の就職体験発表を「就職オリエンテーション」「別府大学懇談会」などで行い、学生や保護者から好評を得ました。

⑤国際化への対応

①日本語教育研究センターでは、ウェルカムパーティーや第2次オリエンテーション、メールサロンなどを実施し、留学生が大学や日本社会に溶け込みやすいように配慮しました。

②各学科で学生海外研修を実施しました。また、教養教育においては、英語教育の充実を図るためTOEIC等の受験料補助を実施しました。

③中国や韓国の教育機関との交流協定締結を推進しました。

④日本語科目は、最長3年次まで段階的に受講できるようにし、履修支援のため、「日本語科目の履修の手引き」とモデル履修パターンを作成しました。また、夏と冬の国際セミナーで留学生に通訳をさせ、文化の橋渡しをする体験を積ませました。

⑥キャンパス学習環境の改善

①施設・設備マスタープラン検討委員会を中心に検討を行い、4号館の耐震補強工事、1号館及び3号館の耐震診断を行いました。23号館の一部の教室では、机や椅子を移動可能なものにし、演習を行いやすくしました。情報環境に関しては、国庫補助を得て、別府キャンパスのすべての教室でインターネットが利用できる無線LAN環境を整備し、さらに、メディア教育研究センターの1階～3階のPC教室を整備しました。

(単位:百万円)		
区 分	金 額	
資産額		
1 基本財産		
土地	184,885 m	3,729
建物	84,326 m	7,764
図書	372,902 冊	1,359
教具・校具・備品	11,447 点	792
その他		1,042
	小 計	14,686
2 運用財産		
現金預金		4,179
積立金		8,946
土地	3,030 m	206
建物	673 m	30
収益事業元入金		3
その他		271
	小 計	13,635
3 収益事業用財産		12
資産総額		28,333
負債額		
1 固定負債		
長期借入金		0
退職給与引当金		1,101
2 流動負債		
短期借入金		0
前受金		1,198
その他		245
3 収益事業用負債		3
負債総額		2,547
正味財産 (資産総額－負債総額)		25,786

(単位:千円)		
科 目	決 算	
I 売上高	53,101	
II 売上原価	0	
売上総利益	53,101	
III 販売費及び一般管理費	55,594	
営業利益	△2,493	
IV 営業外利益	4	
V 営業外費用	0	
経常利益	△2,489	
VI 特別利益	0	
VII 特別損失	102	
学校会計繰入前利益	△2,591	
VIII 学校会計からの交付金収入	6,877	
IX 学校会計繰入金支出	2,000	
税引前当期純利益	2,286	
法人税・住民税及び事業税	0	
法人税等調整額	0	
当期純利益	2,286	

② 損益計算書

(単位:千円)		
資産の部	負債の部	純資産の部
I 流動資産		7,555
II 固定資産		4,188
1 有形固定資産	(0)	
2 無形固定資産	(0)	
3 投資その他の資産	(0)	
資産の部合計		11,743
I 流動負債		2,226
II 固定負債		0
負債の部合計		2,226
I 元入金		3,414
II 利益剰余金		6,103
当期純利益	(2,286)	
純資産の部合計		9,517
負債・純資産の部合計		11,743

① 貸借対照表

(5)収益事業の状況
国際交流会館及びゆふの丘プラザは、私立学校法第26条に基づく収益事業（請負業務です。これらの事業は、その収益を学校法人の教育研究活動に役立てることが目的です。平成25年度においては、国際交流会館では空調機の取り換え、ゆふの丘プラザにおいては、施設・設備の改修を行い、利用環境の改善を図りました。両施設の当期純利益は2286千円となりました。

赤木 清 様	阿比留真一 様	荒木 義則 様
飯沼 俊喜 様	小川 澄弘 様	甲斐 良一 様
菊池 康治 様	兒玉 澄人 様	坂井 功哉 様
土谷 隆司 様	中山 俊一 様	岡田 博文 様
松尾 久大 様	三浦 朗弘 様	村山健二郎 様
李田 稔 様	医療法人 あおひ産婦人科 様	
井上 豊章 様	衛藤 哲雄 様	尾崎 由衛 様
鹿島 俊幸 様	上久保陽子 様	黒肥地雅任 様
中藤 里奈 様	林 正治 様	寺田 正剛 様
佐村 和輝 様	長木 淳一郎 様	古里 正人 様
眞野 好弘 様	南原 武博 様	三山 徳二 様
村上 直彦 様		

【平成25年度】（平成25年4月1日～平成26年3月31日まで）
【平成26年度】（平成26年4月1日～平成26年7月31日まで）
別府大学教育研究振興資金にご寄付いただきました方々に厚く御礼申し上げますとともに、感謝の意を込めて、ここに「芳名」を掲載させていただきます。

なお、「芳名」の公表を希望されない方につきましては、掲載しておりません。

別府大学教育研究振興資金の募金について

別府大学教育研究振興資金にご寄付いただきました方々に厚く御礼申し上げますとともに、感謝の意を込めて、ここに「芳名」を掲載させていただきます。

(2) 学校法人の業務または財産に關し不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

(3) 公認会計士から会計監査の報告を受け、あるいは適時その監査に立ち会い、計算書類等の妥当性を検討しました。

(4) 企画・監査室から内部監査についての報告及び説明を受けました。

1. 監査の方法

(1) 理事会及び評議員会に出席して業務の報告を聴取し、また重要な決裁書類等を閲覧し、業務の妥当性を検討しました。

(2) 重要な財産については、会計帳簿と証憑書類との実照合等を行いました。

(3) 公認会計士から会計監査の報告を受け、あるいは適時その監査に立ち会い、計算書類等の妥当性を検討しました。

(4) 企画・監査室から内部監査についての報告及び説明を受けました。

監事監査報告書

学校法人 別府大学	監事 此本 英郎
理事長 日高 紘一郎 殿	監事 三浦 義人
学校法人 別府大学	監事 〇〇
平成26年5月9日	〇〇

私たち監事は、私立学校法第37条第3項及び学校法人別府大学寄附行為第15条に基づき、平成25年度平成25年4月1日から平成26年3月31日までにおける学校法人の業務及び財産の状況について監査を行いましたので、以下のとおり報告いたします。

1. 理事会及び評議員会に出席して業務の報告を聴取し、また重要な決裁書類等を閲覧し、業務の妥当性を検討しました。

(2) 重要な財産については、会計帳簿と証憑書類との実照合等を行いました。

(3) 公認会計士から会計監査の報告を受け、あるいは適時その監査に立ち会い、計算書類等の妥当性を検討しました。

(4) 企画・監査室から内部監査についての報告及び説明を受けました。

(単位:百万円)			
科 目	本年度末	前年度末	増減
資産の部			
固定資産	23,874	23,640	234
有形固定資産	14,462	14,465	△3
その他の固定資産	9,412	9,175	237
流動資産	4,447	4,775	△328
資産の部合計	28,321	28,415	△94
負債の部			
固定負債	1,101	1,092	9
流動負債	1,443	1,780	△337
負債の部合計	2,544	2,872	△328
基本金の部			
基本金の部合計	25,574	25,252	322
消費収支差額の部			
消費収支差額の部合計	202	291	△89
負債、基本金及び消費収支差額の部合計	28,321	28,415	△94

主な財務比率を見ると、帰属収支差額比率（帰属収支差額÷帰属収入合計）は5.3％であり、中期計画の最終年度での目標値である5.0％以上を達成できました。人件費比率（人件費÷帰属収入合計）は、2年連続して59.6％となり、中期計画の目標値である60.0％以下を達成できました。

① 貸借対照表

平成25年度の帰属収入合計は4446百万円、学生数の減少に伴い学生生徒等納付金及び経常的な補助金が減少しました。平成25年度の消費支出計は4212百万円、人件費・教育研究経費・管理経費等の全科目が前年度に比べ減少しました。帰属収入合計から消費支出計を差し引いた帰属収支差額は234百万円となり、前年度の128百万円に比べ、ほぼ倍増しました。

帰属収支差額から基本金組入額323百万円を差し引くと、当年度の消費収入超過額は△89百万円となり、これに前年度繰越消費収入超過額291百万円を加えると、翌年度繰越消費収入超過額は202百万円となりました。

平成25年度の学生数は4378人、前年度対比△86人で減少傾向が続きます。

Ⅱ 財務の概要

平成25年5月1日現在(単位:人)		
学 校	学 科 等	H25年度
大学院・学部	大学院	43
	文学部	1,098
	食物栄養科学部	417
	国際経営学部	394
	別科日本語課程	43
短期大学部	小 計	1,995
	食物栄養科	93
	初等教育科	305
	地域総合科学科	97
	保育科	128
	専攻科	47
	小 計	670
明豊高等学校	全日・通信制課程	613
明豊中学校		115
明星小学校		329
附属幼稚園		105
明星幼稚園		207
附属看護専門学校	全日・通信制課程	209
境川保育園		67
春木保育園		68
	合 計	4,378

① 「夢・勇氣・愛」を教育目標に掲げ、生徒一人ひとりの心に響く指導に取り組みました。
② 選抜進学クラス・総合進学クラス・看護専攻科の生徒の個性を見極め、個別の指導に努めました。
③ 教師力を高めるため、各種研究会・研修会に参加し、学校での講習会も開催しました。
④ 中学校と小学校の連携を推進しました。
⑤ 強化部では、次の輝かしい成績を収めました。
高等部は卓球部・ソフトテニス部がインターハイに出場し、卓球部はベスト16に入りました。
中学部は、卓球男子が全国大会ベスト8に入り、野球部が全国大会に出場しました。
② 明星小学校
① 全学年が公立小学校と比較して週2時間増の学習時間の確保、1年生から週2時間の英語学習など特色ある教育活動を実施し、基礎学力の充実・向上を図りました。
② 教師の授業力を高めるため、一人二回の研究授業を提案しました。また、私立小学校連合会九州地区教員研修会には全教員が参加したほか、体育実技・書写実技講習会、その他のセミナー等にも積極的に参加し、専門性を深めました。
③ 本校内で年3回の英語検定を実施しました。5年生は、11月の修学旅行時、佐世保のダービースクールにおいて交流活動を体験して日常の英語力を確かめました。5・6年生は、別府大学やAPUの留学生との交流活動から英語活動を楽しむ実践力を身につけました。また、国語力を伸ばすため、週2回「朝読書」に取り組みました。
(附属幼稚園、明星幼稚園)
① 園内研究を通して教育目標達成に向けた体験活動や保育の取り組みを実践しました。
② 担任とサポーターが連絡を密にし、特別な支援を要する園児の支援を推進しました。
③ 大学の教員、学生及び保護者と連携して体験活動を継続的に実施しました。
④ 大学、短大などの実習担当者と連絡を取り合い、丁寧な教育実習の指導を行いました。
⑤ 本園の教育理念、方針、保育計画、方法についてこれまでの実践をまとめました。
⑥ 未就園児対象の子育て支援を行いました。
⑦ 5歳児の保育室2室に空調設備を設置しました。
(明星幼稚園)
① 教育課程に沿い、毎月の目標を定め、季節や伝統行事を生かした活動を行いました。
② 1学期には、小学5・6年生との「運動遊び」、2学期には、1・2年生との「秋の遊び」、3学期には3・4年生との「数や言葉遊びの小学校体験」等の交流活動を実施しました。
③ 小学校のオーブンスクールには、全教員が授業参観し卒園生の学びの様子を知ると共に学びの連続性（幼稚園教育との関連）について研修をしました。
④ 登降園時、給食、各種園行事の始まりに「祈り」の時間を設け、「落ち着いた静かな心」を育てました。
⑤ 未就園児対象の子育て支援として「ちびっ子ルーム」を年7回、「ベビーマッサージ」を年3回実施しました。
⑥ 毎日70名を超える子どもたちが預かり保育に参加し、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるよう指導しました。

② 資金収支計算書

① 園内研究を通して教育目標達成に向けた体験活動や保育の取り組みを実践しました。
② 担任とサポーターが連絡を密にし、特別な支援を要する園児の支援を推進しました。
③ 大学の教員、学生及び保護者と連携して体験活動を継続的に実施しました。
④ 大学、短大などの実習担当者と連絡を取り合い、丁寧な教育実習の指導を行いました。
⑤ 本園の教育理念、方針、保育計画、方法についてこれまでの実践をまとめました。
⑥ 未就園児対象の子育て支援を行いました。
⑦ 5歳児の保育室2室に空調設備を設置しました。
(明星幼稚園)
① 教育課程に沿い、毎月の目標を定め、季節や伝統行事を生かした活動を行いました。
② 1学期には、小学5・6年生との「運動遊び」、2学期には、1・2年生との「秋の遊び」、3学期には3・4年生との「数や言葉遊びの小学校体験」等の交流活動を実施しました。
③ 小学校のオーブンスクールには、全教員が授業参観し卒園生の学びの様子を知ると共に学びの連続性（幼稚園教育との関連）について研修をしました。
④ 登降園時、給食、各種園行事の始まりに「祈り」の時間を設け、「落ち着いた静かな心」を育てました。
⑤ 未就園児対象の子育て支援として「ちびっ子ルーム」を年7回、「ベビーマッサージ」を年3回実施しました。
⑥ 毎日70名を超える子どもたちが預かり保育に参加し、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるよう指導しました。

② 明星小学校

① 全学年が公立小学校と比較して週2時間増の学習時間の確保、1年生から週2時間の英語学習など特色ある教育活動を実施し、基礎学力の充実・向上を図りました。
② 教師の授業力を高めるため、一人二回の研究授業を提案しました。また、私立小学校連合会九州地区教員研修会には全教員が参加したほか、体育実技・書写実技講習会、その他のセミナー等にも積極的に参加し、専門性を深めました。
③ 本校内で年3回の英語検定を実施しました。5年生は、11月の修学旅行時、佐世保のダービースクールにおいて交流活動を体験して日常の英語力を確かめました。5・6年生は、別府大学やAPUの留学生との交流活動から英語活動を楽しむ実践力を身につけました。また、国語力を伸ばすため、週2回「朝読書」に取り組みました。
(附属幼稚園、明星幼稚園)
① 園内研究を通して教育目標達成に向けた体験活動や保育の取り組みを実践しました。
② 担任とサポーターが連絡を密にし、特別な支援を要する園児の支援を推進しました。
③ 大学の教員、学生及び保護者と連携して体験活動を継続的に実施しました。
④ 大学、短大などの実習担当者と連絡を取り合い、丁寧な教育実習の指導を行いました。
⑤ 本園の教育理念、方針、保育計画、方法についてこれまでの実践をまとめました。
⑥ 未就園児対象の子育て支援を行いました。
⑦ 5歳児の保育室2室に空調設備を設置しました。
(明星幼稚園)
① 教育課程に沿い、毎月の目標を定め、季節や伝統行事を生かした活動を行いました。
② 1学期には、小学5・6年生との「運動遊び」、2学期には、1・2年生との「秋の遊び」、3学期には3・4年生との「数や言葉遊びの小学校体験」等の交流活動を実施しました。
③ 小学校のオーブンスクールには、全教員が授業参観し卒園生の学びの様子を知ると共に学びの連続性（幼稚園教育との関連）について研修をしました。
④ 登降園時、給食、各種園行事の始まりに「祈り」の時間を設け、「落ち着いた静かな心」を育てました。
⑤ 未就園児対象の子育て支援として「ちびっ子ルーム」を年7回、「ベビーマッサージ」を年3回実施しました。
⑥ 毎日70名を超える子どもたちが預かり保育に参加し、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるよう指導しました。

② 明星小学校

① 全学年が公立小学校と比較して週2時間増の学習時間の確保、1年生から週2時間の英語学習など特色ある教育活動を実施し、基礎学力の充実・向上を図りました。
② 教師の授業力を高めるため、一人二回の研究授業を提案しました。また、私立小学校連合会九州地区教員研修会には全教員が参加したほか、体育実技・書写実技講習会、その他のセミナー等にも積極的に参加し、専門性を深めました。
③ 本校内で年3回の英語検定を実施しました。5年生は、11月の修学旅行時、佐世保のダービースクールにおいて交流活動を体験して日常の英語力を確かめました。5・6年生は、別府大学やAPUの留学生との交流活動から英語活動を楽しむ実践力を身につけました。また、国語力を伸ばすため、週2回「朝読書」に取り組みました。
(附属幼稚園、明星幼稚園)
① 園内研究を通して教育目標達成に向けた体験活動や保育の取り組みを実践しました。
② 担任とサポーターが連絡を密にし、特別な支援を要する園児の支援を推進しました。
③ 大学の教員、学生及び保護者と連携して体験活動を継続的に実施しました。
④ 大学、短大などの実習担当者と連絡を取り合い、丁寧な教育実習の指導を行いました。
⑤ 本園の教育理念、方針、保育計画、方法についてこれまでの実践をまとめました。
⑥ 未就園児対象の子育て支援を行いました。
⑦ 5歳児の保育室2室に空調設備を設置しました。
(明星幼稚園)
① 教育課程に沿い、毎月の目標を定め、季節や伝統行事を生かした活動を行いました。
② 1学期には、小学5・6年生との「運動遊び」、2学期には、1・2年生との「秋の遊び」、3学期には3・4年生との「数や言葉遊びの小学校体験」等の交流活動を実施しました。
③ 小学校のオーブンスクールには、全教員が授業参観し卒園生の学びの様子を知ると共に学びの連続性（幼稚園教育との関連）について研修をしました。
④ 登降園時、給食、各種園行事の始まりに「祈り」の時間を設け、「落ち着いた静かな心」を育てました。
⑤ 未就園児対象の子育て支援として「ちびっ子ルーム」を年7回、「ベビーマッサージ」を年3回実施しました。
⑥ 毎日70名を超える子どもたちが預かり保育に参加し、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるよう指導しました。

② 明星小学校

① 全学年が公立小学校と比較して週2時間増の学習時間の確保、1年生から週2時間の英語学習など特色ある教育活動を実施し、基礎学力の充実・向上を図りました。
② 教師の授業力を高めるため、一人二回の研究授業を提案しました。また、私立小学校連合会九州地区教員研修会には全教員が参加したほか、体育実技・書写実技講習会、その他のセミナー等にも積極的に参加し、専門性を深めました。
③ 本校内で年3回の英語検定を実施しました。5年生は、11月の修学旅行時、佐世保のダービースクールにおいて交流活動を体験して日常の英語力を確かめました。5・6年生は、別府大学やAPUの留学生との交流活動から英語活動を楽しむ実践力を身につけました。また、国語力を伸ばすため、週2回「朝読書」に取り組みました。
(附属幼稚園、明星幼稚園)
① 園内研究を通して教育目標達成に向けた体験活動や保育の取り組みを実践しました。
② 担任とサポーターが連絡を密にし、特別な支援を要する園児の支援を推進しました。
③ 大学の教員、学生及び保護者と連携して体験活動を継続的に実施しました。
④ 大学、短大などの実習担当者と連絡を取り合い、丁寧な教育実習の指導を行いました。
⑤ 本園の教育理念、方針、保育計画、方法についてこれまでの実践をまとめました。
⑥ 未就園児対象の子育て支援を行いました。
⑦ 5歳児の保育室2室に空調設備を設置しました。
(明星幼稚園)
① 教育課程に沿い、毎月の目標を定め、季節や伝統行事を生かした活動を行いました。
② 1学期には、小学5・6年生との「運動遊び」、2学期には、1・2年生との「秋の遊び」、3学期には3・4年生との「数や言葉遊びの小学校体験」等の交流活動を実施しました。
③ 小学校のオーブンスクールには、全教員が授業参観し卒園生の学びの様子を知ると共に学びの連続性（幼稚園教育との関連）について研修をしました。
④ 登降園時、給食、各種園行事の始まりに「祈り」の時間を設け、「落ち着いた静かな心」を育てました。
⑤ 未就園児対象の子育て支援として「ちびっ子ルーム」を年7回、「ベビーマッサージ」を年3回実施しました。
⑥ 毎日70名を超える子どもたちが預かり保育に参加し、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるよう指導しました。

② 明星小学校

① 全学年が公立小学校と比較して週2時間増の学習時間の確保、1年生から週2時間の英語学習など特色ある教育活動を実施し、基礎学力の充実・向上を図りました。
② 教師の授業力を高めるため、一人二回の研究授業を提案しました。また、私立小学校連合会九州地区教員研修会には全教員が参加したほか、体育実技・書写実技講習会、その他のセミナー等にも積極的に参加し、専門性を深めました。
③ 本校内で年3回の英語検定を実施しました。5年生は、11月の修学旅行時、佐世保のダービースクールにおいて交流活動を体験して日常の英語力を確かめました。5・6年生は、別府大学やAPUの留学生との交流活動から英語活動を楽しむ実践力を身につけました。また、国語力を伸ばすため、週2回「朝読書」に取り組みました。
(附属幼稚園、明星幼稚園)
① 園内研究を通して教育目標達成に向けた体験活動や保育の取り組みを実践しました。
② 担任とサポーターが連絡を密にし、特別な支援を要する園児の支援を推進しました。
③ 大学の教員、学生及び保護者と連携して体験活動を継続的に実施しました。
④ 大学、短大などの実習担当者と連絡を取り合い、丁寧な教育実習の指導を行いました。
⑤ 本園の教育理念、方針、保育計画、方法についてこれまでの実践をまとめました。
⑥ 未就園児対象の子育て支援を行いました。
⑦ 5歳児の保育室2室に空調設備を設置しました。
(明星幼稚園)
① 教育課程に沿い、毎月の目標を定め、季節や伝統行事を生かした活動を行いました。
② 1学期には、小学5・6年生との「運動遊び」、2学期には、1・2年生との「秋の遊び」、3学期には3・4年生との「数や言葉遊びの小学校体験」等の交流活動を実施しました。
③ 小学校のオーブンスクールには、全教員が授業参観し卒園生の学びの様子を知ると共に学びの連続性（幼稚園教育との関連）について研修をしました。
④ 登降園時、給食、各種園行事の始まりに「祈り」の時間を設け、「落ち着いた静かな心」を育てました。
⑤ 未就園児対象の子育て支援として「ちびっ子ルーム」を年7回、「ベビーマッサージ」を年3回実施しました。
⑥ 毎日70名を超える子どもたちが預かり保育に参加し、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるよう指導しました。

② 明星小学校

① 全学年が公立小学校と比較して週2時間増の学習時間の確保、1年生から週2時間の英語学習など特色ある教育活動を実施し、基礎学力の充実・向上を図りました。
② 教師の授業力を高めるため、一人二回の研究授業を提案しました。また、私立小学校連合会九州地区教員研修会には全教員が参加したほか、体育実技・書写実技講習会、その他のセミナー等にも積極的に参加し、専門性を深めました。
③ 本校内で年3回の英語検定を実施しました。5年生は、11月の修学旅行時、佐世保のダービースクールにおいて交流活動を体験して日常の英語力を確かめました。5・6年生は、別府大学やAPUの留学生との交流活動から英語活動を楽しむ実践力を身につけました。また、国語力を伸ばすため、週2回「朝読書」に取り組みました。
(附属幼稚園、明星幼稚園)
① 園内研究を通して教育目標達成に向けた体験活動や保育の取り組みを実践しました。
② 担任とサポーターが連絡を密にし、特別な支援を要する園児の支援を推進しました。
③ 大学の教員、学生及び保護者と連携して体験活動を継続的に実施しました。
④ 大学、短大などの実習担当者と連絡を取り合い、丁寧な教育実習の指導を行いました。
⑤ 本園の教育理念、方針、保育計画、方法についてこれまでの実践をまとめました。
⑥ 未就園児対象の子育て支援を行いました。
⑦ 5歳児の保育室2室に空調設備を設置しました。
(明星幼稚園)
① 教育課程に沿い、毎月の目標を定め、季節や伝統行事を生かした活動を行いました。
② 1学期には、小学5・6年生との「運動遊び」、2学期には、1・2年生との「秋の遊び」、3学期には3・4年生との「数や言葉遊びの小学校体験」等の交流活動を実施しました。
③ 小学校のオーブンスクールには、全教員が授業参観し卒園生の学びの様子を知ると共に学びの連続性（幼稚園教育との関連）について研修をしました。
④ 登降園時、給食、各種園行事の始まりに「祈り」の時間を設け、「落ち着いた静かな心」を育てました。
⑤ 未就園児対象の子育て支援として「ちびっ子ルーム」を年7回、「ベビーマッサージ」を年3回実施しました。
⑥ 毎日70名を超える子どもたちが預かり保育に参加し、家庭的な雰囲気の中で安心して過ごせるよう指導しました。

(4) 附属看護専門学校

① 全教職員がきめ細かく熱意を持って学生の学習環境・実習をサポートしました。

② 病院経営の実績がある院長、看護管理の高度な実績を有する看護部長、現場で活躍する卒業生、第2線で働く看護師、管理部門の長の業務の現況を、特別教育活動の中で学生が聴講しました。

③ 教員の個人力に任せていた国試対策を全員で同じ研修を受けました。

④ 教員間で技術・手技の話し合いを密にし、通信制の教員とも協力し、学生指導に生かしました。

⑤ 通信制は、学生募集を停止しており、平成26年度に在校生の全員が修了できるよう、個別学習計画を立案し、通信教材等を見直ししました。

(5) 境川保育園、春木保育園

① 保育の質の向上をめざし、園内研修の充実を図りました。

② 一人ひとりの子どもたちの気持ちを大切に受けとめ、年齢に応じたまた個々の子どもの育ちを見守ることができているか」会議の中で振り返り、保育に取り組みました。

・園外研修参加者の報告を会議の中で取り上げ、意見交換しながら内容を深め共通理解に努めました。

② 保育環境の充実
遊びの環境を工夫することで異年齢児のつながりを充実させました。・全身でチャレンジできる固定遊具を設置しました。

③ 地域社会の資源としての役割
園庭開放、芋畑での交流、地域の祭り参加、保育園行事への招待、地域の防災訓練への参加等で地域とのつながりを充実させました。

④ 地域貢献・文化推進事業
① 地域貢献の推進
教職員が地域に貢献したことについてマスコミで報道されるなど顕著な業績があった場合に、理事長による奨励賞を授与する制度を設け、本年度は31人の教員が授賞しました。

② 大分香りの博物館
① 香りの文化講座 美女の世界にみる温泉と香りの文化史」を開催しました。

② 大分県の支援のもと、大分市、福岡市で「香水づくりプチ体験」を無料を実施しました。